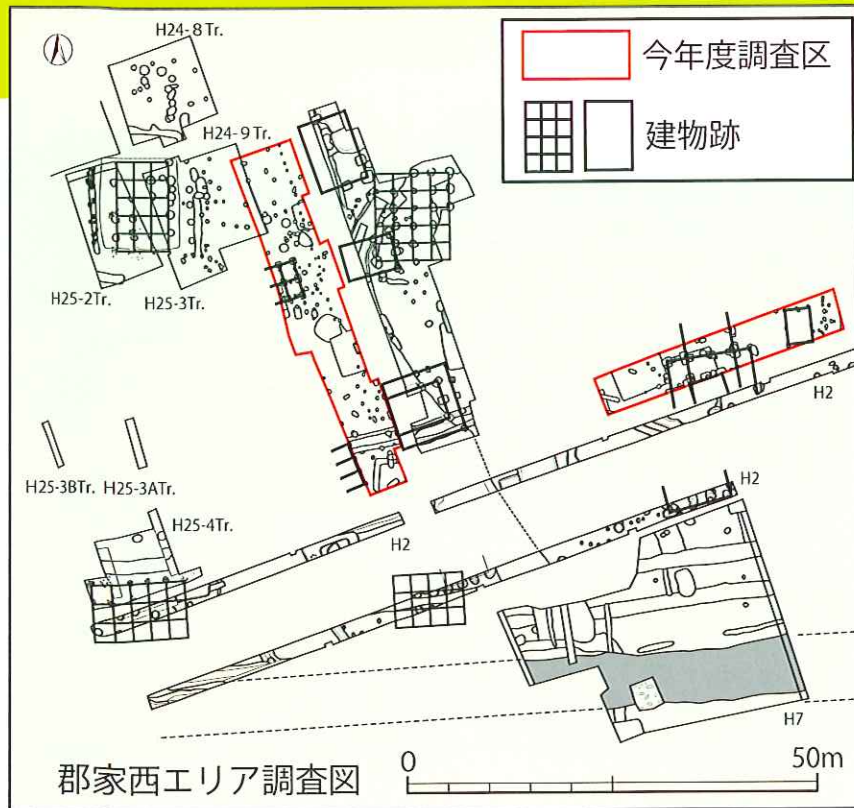


しせきこうずけのくににいたぐうけあと 史跡上野国新田郡家跡

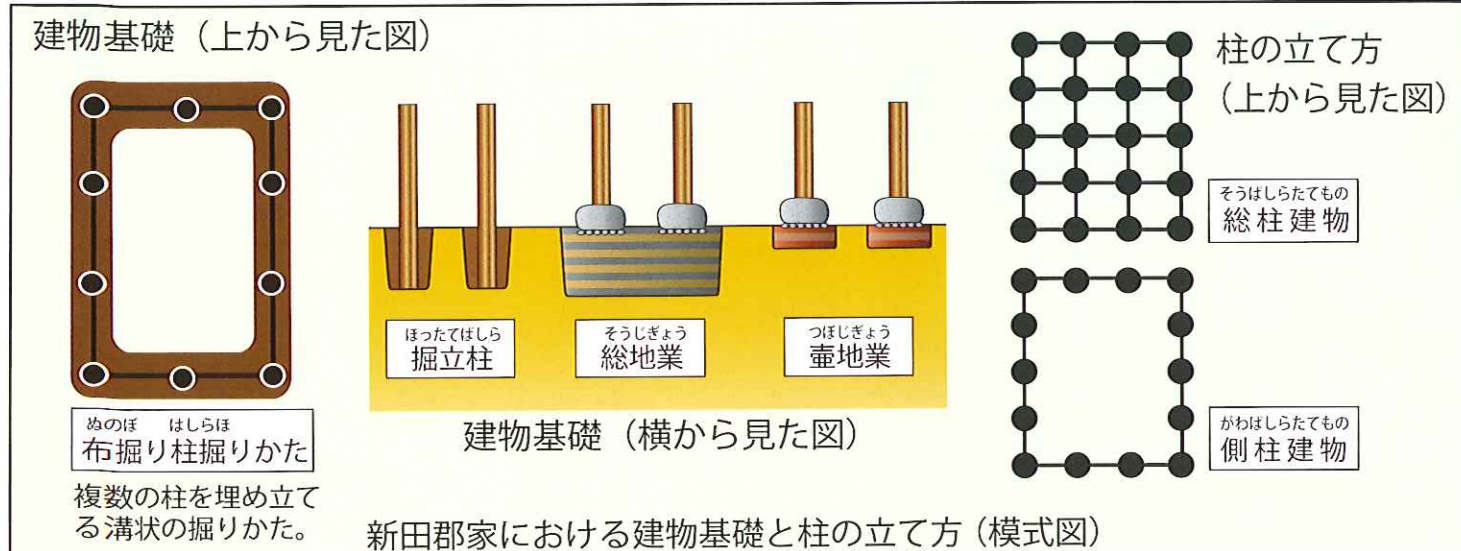
国史跡追加指定記念

—平成 27 年度現地説明会資料—



○郡家西エリアの建物跡

これまでの発掘調査の結果、郡家西エリアでは正倉跡のほかに古い時期の掘立柱建物跡などが見つかりました。新しい時期に建てられた正倉跡は、真北を向いていますが、これら古い時期の建物跡は、向きをやや西に傾けて整然と建てられていたことがわかりました。また、これらの中にはひさし廂付の建物跡があることなどから、古い時期のきょたく居宅（郡司の住まい）あるいはたち館がここにあったのではないかと考えられています。



【用語の解説】

郡家…郡とは古代の行政単位です。平安時代、上野国（現在の群馬県）には 14 の郡があり、この遺跡がある地域は新田郡でした。郡家（歴史用語で「ぐうけ」と読むことになっています。）とは、郡におかれた役所全体をさします。『上野国交替実録帳』によると、郡家には以下の 4 種類の建物があったとされています。

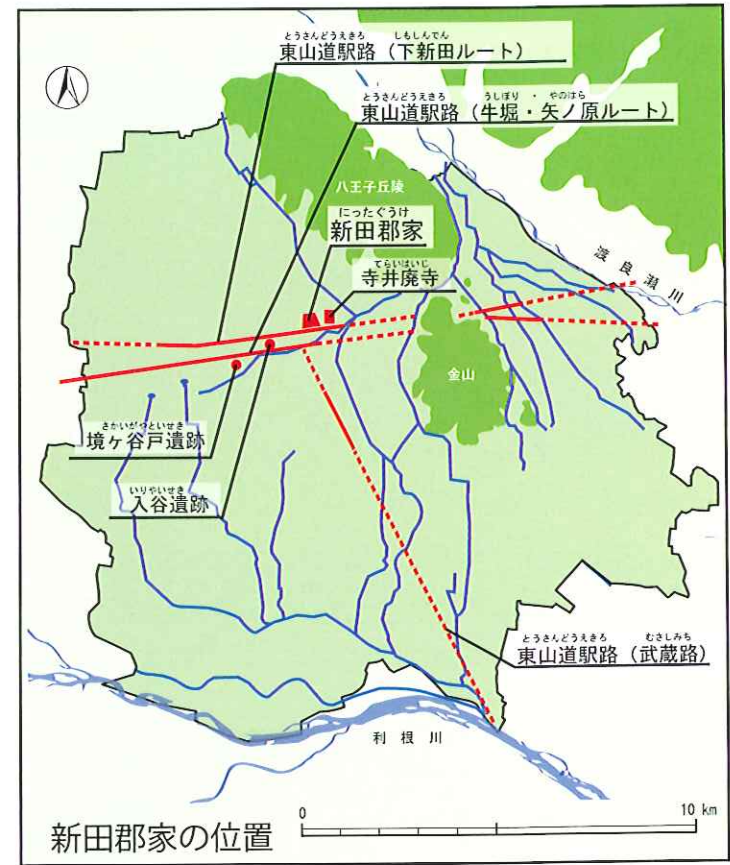
- ① **郡庁**…郡を治める地方官である郡司が儀式や政務を行うところです。
- ② **正倉**…租税として徴収した米を保管する倉庫です。
- ③ **館**…役人などの宿泊施設です。
- ④ **厨**…郡家全体の食事の調達、役人の食事を供給する施設です。

天良七堂遺跡は、これまでの発掘調査によって、7世紀後半から9世紀の新田郡の役所「新田郡家」であったことがわかっています。

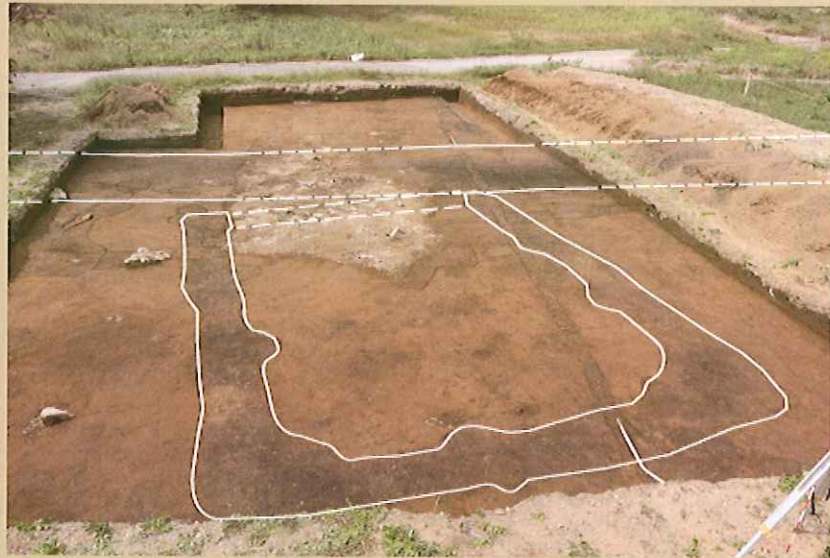
郡家跡の中心部分である郡庁跡は、国内最大の規模であったことがわかり、平成20年7月28日に「上野国新田郡庁跡」として、国の史跡に指定されました。

その後、継続的に発掘調査を行い、穀物倉庫である正倉跡などを多数確認し、平成27年10月7日に郡庁の北西にある正倉跡群が追加指定され、「上野国新田郡家跡」と指定名称が変更されています。

今年度は、郡家北エリアと郡家西エリアの調査を行ない、正倉跡や古い時期の郡家の施設などを確認しました。



郡家北エリア②



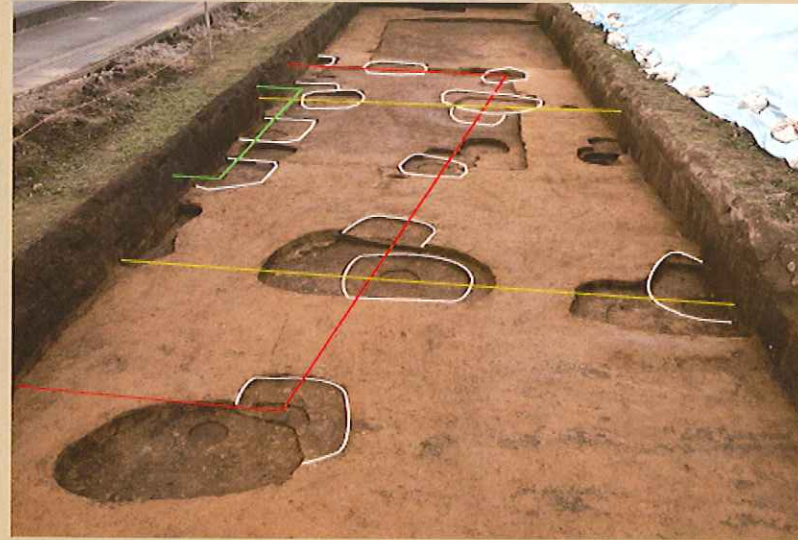
幅約3.1mの区画溝や、東西約7.7m、南北約6.1mの建物跡（布掘り柱掘りかた）などが見つかりました。これらは古い時期における郡家の施設であると考えられます。

郡家北エリア①



南北約14.5m、東西約8.8mの正倉の基礎（総地業）が確認されました。周辺に炭化米が散らばっていることから、火事があったと推定されます。

郡家西エリア①



郡家ができる前の時代の^{たてあな}縦穴建物跡のほか、^{ほったて}掘立柱建物跡が4棟確認されました。そのうち、3棟の建物跡は少しずつ位置や向きを変えながら建て替えられていたことがわかりました。

郡家西エリア②



東西1間超、南北2間の建物跡（^{そうぼしら}総柱の倉庫跡）が見つかりました。

平成9年度調査で見つかった建物跡（3^{めんむさし}面廂の掘立柱建物跡）の西端部分が見つかりました。

